

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 5 月 11 日

評価対象事業	教育	-	22	鎌倉国宝館管理運営事業				☐ 法定受託事務	
所管課	教育文化財部 生涯学習課				評価者	生涯学習課長 飯田 拓也			
一般	会計	款	55	項	20	目	30		
総合計画上の位置付け	分野名	歴史環境			施策の方針名		文化財の保護		

1 事業の目的

対象	市民等	意図	鎌倉ゆかりの文化財を収集、受託、保管し安全に後世に伝えるとともに、調査・研究、展示をととして市民等の利用に供するため。
効果	国宝・重要文化財を含む寄託品・館蔵品、併せて1,000件、5,000点を超える収蔵品について、保全と活用を図る。		

2 事業工程と運営資源配分

☐ 単年度事業 ☐ 終期のある事業 (事業終了予定年度： 年度) ☒ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	鎌倉国宝館の管理運営	鎌倉国宝館の管理運営・開館100周年に向けた事業	鎌倉国宝館の管理運営・開館100周年に向けた事業
予算額（千円）	118,041	266,544	
国県支出金		61,224	
地方債			
その他	39,948	134,436	
一般財源	78,093	70,884	0
当初人員配置数	6.5	9.9	0.0
人件費（千円）	35,454	44,071	0
事業実績	鎌倉国宝館の管理運営		
決算額（千円）	98,762		
国県支出金	3,435		
地方債			
その他	41,946		
一般財源	53,381	0	0
人員配置実績数	8.5	0.0	0.0
人件費（千円）	37,276	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9
	指標名	展覧会の開催回数	回	9	⇒	7		
活1	実績につながる活動	特別展を6回、コレクション展を1回開催した。				98,762		
	指標名	開館日数	日	242	⇒	242		
活2	実績につながる活動	特別展を6回、コレクション展を1回開催した。				98,762		
	指標名	鎌倉国宝館協議会の開催回数	回	1	⇒	1		
活3	実績につながる活動	博物館法に基づく鎌倉国宝館協議会を令和8年(2026年)3月13日に開催し、館運営に係る委員意見を徴取した。				52		

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	令和6年度(初期値)は収蔵品展示を主軸とした展覧会を数多く開催したが、令和7年度は東アジア文化都市2025に係る特別展「扇影衣香－鎌倉と宋元・高麗の仏教絵画の交響－」など、遠方からの資料借用を含む展覧会を開催し、展覧会開催回数としては減少となった。
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	展覧会開催回数は令和6年度に比べて減少したが、開館日数は同じであり、「#鎌倉国宝館」「こもんじょ沼-中世鎌倉の古文書入門-」「扇影衣香」など近年に無いテーマの展覧会を開催できたことから、目標は達成できたと捉えている。なお、令和10年度の鎌倉国宝館開館100周年を前に令和8年度以降大規模修繕が続くため、展覧会開催回数・開館日数ともに減少する予定である。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果指標No (最大3つ)
成1	1日あたりの平均来館者数	人/日	182	↗	181			1 2
成2	来館者の満足度	%	80.0	↗	92.9			1 2

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	令和7年度は近年に無い新たなテーマの展覧会を複数回開催し満足度が大幅に向上した。また、初期値の満足度ではアンケート取得数が十分ではなく精度が低かったと予想されるが、令和7年度は展覧会毎に十分なアンケート回答数を得ることができ、精度が高まったと考えられる。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	展覧会開催回数、開館日数は成果指標結果のベースとして寄与する指標であるが、これらに加え、充実した展覧会の内容、展覧会に関連した講演会や子ども向けワークショップの開催、SNSの積極的な発信等、年間を通じた複合的な活動により、来館者の満足度が大幅に向上したと分析する。

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	☐ 増えている	☒ 変わらない	☐ 減少している
		事業実施の主体となるべき者	☒ 市	☐ 国・県	☐ 民間事業者 ☐ なし
	有効性	事業の成果	☐ 十分に出ている	☒ 概ね出ている	☐ 出ていない
	効率性	事業費削減余地	☐ ある	☒ なし	
	公平性	関連・類似事業との統合	☐ できる	☒ できない	
方向性		評価実施年度の方向性	⇒ 評価実施翌年度以降の方向性		
	事業内容の方向性	☐ 事業内容は現状通り ☒ 事業内容は見直し済 ☐ 事業を休止又は廃止済 ☐ 他事業と統合済	⇒	☐ ① 事業内容は現状通りとする ☒ ② 事業内容は見直す → ☒ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他 ☐ ③ 事業は休止又は廃止する ☐ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する → 事業へ統合	
	予算規模の方向性	☐ 予算規模は現状維持 ☒ 予算規模は拡大済 ☐ 予算規模を縮小済	⇒	☐ ④ 予算規模は現状維持とする ☒ ⑤ 予算規模は拡大する ☐ ⑥ 予算規模は縮小する	

今後の取組方針（見直し方針）	課題への対応		結果	具体的な内容
	前年度の新たな課題への対応結果		未解決	空調機器については、前回改修から新館収蔵庫が19年、本館展示場が13年経過している。一般的な耐用年数10～15年を超過していることから、機器全般の入れ替えが必要であるが、実施見込みが立っていない。
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題		新たな課題あり	令和7年度に本館内天井裏から石綿が発見され、除去する必要が発生した。また、敷地内通路は舗装されておらずバリアフリー化が進んでいない。これらの実施にあたっては施設を休館とする必要がある。
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性		新規事業の必要性あり	国内有数の歴史を誇る鎌倉国宝館は令和10年度に開館100周年を迎える。これに向けて石綿除去、敷地内バリアフリー化といった施設整備を早急に進める必要がある。
	総評	展覧会等を通じ市民や来訪者が鎌倉の歴史遺産等に親しむ機会を提供しており、目標とするまちの姿への貢献度は高い。引き続きこれらの取組みを進めるとともに、石綿除去及び敷地内通路改修等も実施していく。一方、文化財の安全な収蔵・展示に必要不可欠な空調機器の更新は、鎌倉国宝館協議会からも強く求められているものの実施目途が立っておらず、実施に向け調整を進めていく必要がある。		

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項	展覧会の開催回数								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	7		4						
	鎌倉国宝館		茅ヶ崎市博物館						
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	展覧会の開催回数は茅ヶ崎市博物館より多いが、博物館は自然・人文・総合と扱う対象物も規模も様々であり比較は難しい。鎌倉国宝館において現在の職員数、予算規模で安全に充実した展覧会を行うには現在の回数程度が上限と考える。								